



一般社団法人 電波産業会  
Association of Radio  
Industries and Businesses

No.1330 2022年10月31日

### 10月は「受信環境クリーン月間」です

受信環境クリーン中央協議会では、例年10月1日から10月31日までの間を「受信環境クリーン月間」と定め、放送電波受信障害防止に向けた集中的活動を実施しています。会員の皆様も電波障害の防止になお一層のご協力をお願いします（詳細はARIB ニュース No.1322 2022年9月5日を参照ください）。

### ARIB からのお知らせ

#### 第192回 ARIB 電波利用セミナー開催のお知らせ

#### 「最近の電波監視を巡る総務省の取組

#### ～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会での電波監視を中心に～

社会経済活動の発展や高度情報社会の進展に伴って、電波利用は増大、多様化の一途をたどっていると同時に、電波利用はあらゆる分野に及び、広く社会生活の中に浸透するなど、今後ますます拡大を続けて行くことが予想されています。

電波は非常に便利である反面、ルールを守って利用しなければ混信・妨害や電波障害を起こすなど、非常にデリケートな性質を持っているため、混信・妨害や電波障害のない良好な電波利用環境の実現が強く求められています。

電波利用が拡大する中で、社会経済活動を支える良好な電波利用環境を維持するための取組はますます重要となっています。特に、大規模な国際的イベントの開催時には、海外からの参加者も含め、数多くの無線局利用の需要がある上、警察無線、消防無線、航空無線、鉄道無線等の重要無線通信に対する混信や電波妨害の発生にも備える必要があります。

そのような中、2021年7月23日～8月8日及び8月24日～9月5日に開催された「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」において、総務省では、東京2020組織委員会とともに、電波が高密度に利用されている関東エリアにおいて、海外から持ち込まれる各種無線局の利用を実現するための準備や、大会期間前後の電波監視へ取り組み、大会期間中における無線局の混信、妨害等の除去に大きく貢献されました。

そこで、今回のARIB電波利用セミナー（旧電波利用懇話会）では、総務省総合通信基盤局 電波部 電波環境課 監視管理室の近藤課長補佐をお迎えして、「最近の電波監視

を巡る総務省の取組～東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会での電波監視を中心に～」についてご講演いただきます。

今回も新型コロナウイルス対策として、オンラインセミナーとして開催いたします。会員の皆様には、是非ともご参加下さいますようにご案内申し上げます。

記

- 1 日 時：2022年11月29日（火）16時から17時まで
- 2 場所・形態：オンラインセミナー（Zoom ウェビナー使用）
- 3 題 名：「最近の電波監視を巡る総務省の取組  
～東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会での  
電波監視を中心に～」
- 4 講 師：総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 監視管理室  
課長補佐 近藤 直光 様
- 5 参 加 者：180名程度（定員になり次第締め切らせていただきます。）  
ARIB正会員、賛助会員対象
- 6 申 込 先：当会ホームページの「講演会等開催案内」よりお申込みください。  
(<https://www.arib.or.jp/osirase/seminar/index.html>)
- 7 参 加 費：無料
- 8 問 合 せ 先：企画国際部 ARIB電波利用セミナー事務局 辻道  
TEL: 03-5510-8592 E-mail: [arib-seminar2022@arib.or.jp](mailto:arib-seminar2022@arib.or.jp)

## ARIB 機関誌 No.118 発行のお知らせ

ARIB 機関誌 No.118 を 10 月 31 日付にて発行しました。

本号では、当会の副会長による「巻頭言」を掲載しています。

「ARIB 活動報告」では、2022 年 7 月から 2022 年 9 月末までの活動期報告を掲載していません。

ARIB 機関誌 No.118 掲載記事

### 【巻頭言】

- ・ICT の高度化と利活用の進展

一般社団法人電波産業会 副会長 児玉 圭司  
(日本放送協会 理事・技師長)

- ・持続可能な社会を支える 5G の浸透

一般社団法人電波産業会 副会長 吉村 和幸  
(KDDI 株式会社 取締役執行役員専務)

## 【 ARIB 活動報告 】

電波の利用に関する調査、研究及び開発

電波利用システムの調査研究

電波利用システムの研究開発

高度無線通信研究開発

電磁環境調査研究

コンサルティング及び普及啓発

標準規格の策定

委員会報告

ARIB 日誌

出版物一覧

事務局の現状

事務局だより



ARIB 機関誌電子版を「ARIB 会員のページ」、「ARIB 機関誌」に掲載していますので、ご利用ください。

なお、ID・パスワードが不明の方は ARIB 会員連絡窓口までお問い合わせ下さい。

## ARIB の動き

### ITU-R WP5D 第 42 回会合の概要報告

#### 1 会合の概要

WP 5D (Working Party 5D : 5D 作業部会) は、ITU-R の SG 5 (Study Group 5 : 第 5 研究委員会) の下に設置され、IMT (International Mobile Telecommunications : 移動通信システムの国際標準) に関する検討を行っている専門家会合であり、通常年 3 回程度実施されています。

日 程 : 2022 年 10 月 10 日(月) ~ 21 日(金)

場 所 : スイス・ジュネーブ ITU 本部 (Web 会議併用)

参 加 者 : 各国、各団体から 650 名 (登録者ベース)

日本代表団として総務省 移動通信課 重成係長を団長に 22 名 (ARIB からは西岡理事、加藤担当部長、佐藤 (拓) 主任研究員が参加)

#### 2 主要結果

##### (1) General Aspects 関連

- ① 将来の無線システムのビジョン等に関する新勧告案 ITU-R M.[IMT.VISION 2030 and BEYOND]について、日本提案を含む 25 件の寄与文書に基づき審議を行い、作業文書を更新しました。ユースシナリオ、概念図については更なる検討が必要であると見られ、検討グループを設置して、次回 2 月会合まで作業を進めることとしました。本文書は 2023 年 6 月会合での完成を目標としています。

- ② 産業・企業向けの IMT システム利用に関する新報告案については、名称を Applications of IMT for specific societal, industrial and enterprise usages に変更し、作業文書が更新されました。本文書は 2023 年 2 月会合での完成を目標としています。
- ③ 2023 年 無線通信総会 (Radiocommunication Assemblies : RA-23) に向けた ITU-R 決議の更新作業として、決議 56-2 (IMT の呼称) に、“IMT for 2030 and beyond” の呼称を “IMT-2030 “として追加する改訂案を WP 5D レベルで合意しました。決議 65 (将来 IMT 開発プロセスの基本方針) については、次回会合で継続検討としました。

## (2) Spectrum Aspects & WRC-23 Preparation 関連

- ① 周波数アレンジメント勧告 ITU-R M.1036 の改訂作業について、今会合から検討を再開し、日本提案を含む寄与文書に基づく審議が行われましたが、各国の意見が分かれ合意には至らず次回会合へ持ち越しました。
- ② WRC-23 議題 1.2 (3300-3400 MHz、3600-3800 MHz、6425-7025 MHz、7025-7125 MHz 及び 10.0-10.5 GHz 帯における移動業務への一次分配を含む IMT 特定の検討) について、日本提案を含む寄与文書に基づく審議が行われ、CPM テキスト案を完成させました。また、共用両立性検討に関する作業文書を更新しました。
- ③ WRC-23 議題 1.4 (2.7 GHz 以下の IMT 特定された周波数帯における IMT 基地局としての高高度プラットフォームステーション(HIBS)利用の検討) について、日本提案を含む寄与文書に基づく審議が行われ、CPM テキスト案を完成させました。また、共用両立性検討に関する作業文書を更新しました。HIBS 技術運用特性等に関する新報告草案に向けた作業文書については時間の制約から更新せず、関連する寄書とともに次回会合に持ち越しました。
- ④ 無線通信規則 21.5 条への AAS (Advanced Antenna System) の適用検討に関する BR 局長への文書については、日本提案を含む寄与文書に基づく審議が行われましたが、固定衛星業務保護を求める立場、IMT 利用を推進する立場で、それぞれが従来の主張を継続する形となり、限定的な進捗に留まりました。2023 年 2 月会合での完成を目標としています。

## (3) Technology Aspects 関連

- ① IMT-2020 無線インタフェース勧告 ITU-R M.2150 に対する Nufront からの技術提案 (5G-EUHT RIT) について、評価団体である 5GMF、WWRF(Wireless World Research Forum)等から、技術要求条件を満たさないとの最終評価レポートを受領しました。審議の結果、5G-EUHT RIT は IMT-2020 の技術要求条件を満たさないとの結論に達し、勧告には含めないこととなりました。
- ② IMT-2020 無線インタフェース技術の不要輻射特性新勧告について、ETSI 及び 3GPP から不要輻射特性情報の入力があり、作業文書に反映し次回会合に持ち越しました。本文書は 2023 年 6 月会合での完成を目標としています。
- ③ ブロードバンドリモートカバレッジに関する新報告 ITU-R M.[IMT TERRESTRIAL REMOTE COVERAGE]の作業文書を更新し、新報告草案として完成し SG 5 に上程することとなりました。
- ④ 100GHz 以上の無線技術の実現性に関する新報告案 ITU-R M.[IMT.ABOVE 100GHz]

の作業文書を更新しました。日本提案を含む 10 件が審議され、概ね作業文書に反映されています。検討対象を 92GHz 以上の帯域に拡大する日韓提案は、スコープ上合意され、本文表記は 92GHz 以上に変更されましたが、タイトルは 100GHz 以上とする結論となりました。本文書は 2023 年 6 月会合での完成を目標としています。

### 3. 次回会合スケジュール

2023 年 1 月 31 日(火)～2 月 9 日(木)にジュネーブ (Web 会議併用) にて実施予定です。

## CEATEC 2022 「5G スペシャルデーⅣ」の開催報告

今年の CEATEC 2022 はオンラインに加え、3 年ぶりとなるリアル開催の展示等が幕張メッセで行われました(オンライン会場 10 月 1 日～31 日/幕張メッセ会場 10 月 18 日～21 日)。当 CEATEC 2022 において、10 月 19 日に「5G スペシャルデーⅣ」として、午前と午後にワークショップをオンラインにて開催しました。

午前の部では、ローカル 5G 普及推進官民連絡会、一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)、一般社団法人 電波産業会 (ARIB)、第 5 世代モバイル推進フォーラム (5GMF) の共催により、「ローカル 5G 利活用 2022 ワークショップ」を開催しました。午後の部では総務省、5GMF、ARIB の共催により「5G の最新動向 2022 国際ワークショップ」を開催しました。

オンライン配信は合計 300 名を超える方にご視聴いただきました。引き続き 10 月 31 日までアーカイブ配信されますので、更に多くの方のご視聴が見込まれます。

(URL : <https://www.ceatec.com/ja/>)

なお、講演者は都内の東京ポートシティ竹芝のスタジオにお集まりいただき、感染防止対策として、飛沫防止用のアクリル板の設置、マイクや演壇のアルコール消毒などを徹底した中でライブ配信を行いました。

### 1. コンファレンス概要

日 付 : 2022 年 10 月 19 日 (水)

#### (1) 午前の部 : 「ローカル 5G 利活用 2022 ワークショップ」

「利活用の広がり」と課題、今後の展望」をテーマとして、前半に「産業分野に広がるローカル 5G 利活用の最前線」についての講演、後半に「本音で語ろうローカル 5G の展望と課題」(第 2 回本音シリーズ)についてのパネル討論を行いました。

登壇者 :

内田雄一郎 氏 (総務省)、大山りか 氏 (ON BOARD)、森川博之 氏 (東京大学)  
中村光則 氏 (阪神電鉄)、門野貴明 氏 (NTT 東日本)、大屋靖男 氏 (CIAJ/東芝)

視聴者数 : 192 名

#### (2) 午前の部 : 「5G の最新動向 2022 国際ワークショップ」

前半に「アジア地域の商用化への取組」についてのアジア 3 개국からの講演、後半に「5G の利活用に向けた日本のデジタル戦略」についてのパネル討論を行いました。

登壇者 :

関口和一 氏 (MM 総研)、中尾彰宏 氏 (東京大学)、岩浪剛太 氏 (インフォシティ)  
谷直樹 氏 (NTT ドコモ)、河村厚男 氏 (NEC)、藤岡雅宣 氏 (エリクソン・ジャパン)



ビデオ登壇：

Mr. Deng Wei (中国/China Mobile)、 Prof. HyeonWoo LEE (韓国/DanKook Univ.)、  
Mr. Saneh Saiwong (タイ/NBTC (国家放送通信委員会))

視聴者数：132名

## 2. 開催概要

冒頭、5GMF 会長 吉田進 氏から主催者を代表してご挨拶があり、続いて総務省 総合通信基盤局 電波部長 豊嶋基暢 氏から来賓のご挨拶がありました。



### (1) 午前の部：「ローカル 5G 利活用 2022 ワークショップ」

#### ① 開会挨拶及び講演

冒頭、ARIB 理事 西岡誠治による開会挨拶のあと、総務省 情報流通行政局 デジタル経済推進室長 内田雄一郎 氏、阪神電気鉄道株式会社 情報・通信事業本部 情報・通信統括部課長 中村光則 氏、東日本電信電話株式会社 ビジネスイノベーション本部 ソリューションアーキテクト部 先端技術グループ長 門野貴明 氏の3名より、ローカル 5G 普及促進の総務省の取組と産業分野に広がる利活用の事例紹介に関する講演がありました。



#### ② パネル討論

続いて、モデレーターに株式会社 ON BOARD 代表取締役 大山りか 氏、コメンテーターに東京大学教授 森川博之 氏、パネリストに一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ) 5G/Beyond5G システム委員会委員長 大屋靖男 氏、上記の内田雄一郎 氏、中村光則 氏、門野貴明 氏を迎え、「本音で語ろうローカル 5G の現状と展望」と題して、パネル討論が行われました。

モデレーターから「ローカル 5G が注目されていると聞いているが、実際どうか？利益は出ているか？課題は？」などの問いに対し、パネリストから「引き合いも多く、かなり来てる」、ユーザ側の状況は「数年スパンで見ると利益を見込んでいるのでは」、「赤字

の部門があるがトータルで黒字となっている」、ユーザ視点として「Wifi とローカル 5G の適切な使い分け」など、文字どおり本音を交えた活発な議論となり、昨年同時期の状況と比較すると、今回は「光が見えてきた」とのコメントがありました。

最後に CIAJ 常務理事 石井義則 氏より閉会のご挨拶があり、午前の部を終えました。



パネル討論会の様子

左から大山りか 氏、森川博之 氏、内田雄一郎 氏、中村光則 氏、門野貴明 氏、大屋靖男 氏



## (2) 午後の部：「5G の最新動向 2022 国際ワークショップ」

### ① 開会挨拶及び講演

最初に 5GMF 会長 吉田進 氏による開催のご挨拶があり、続いて総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課長 中村裕治 氏より、基調講演がありました。

基調講演では、5G の割当周波数の拡張など普及推進活動の状況や、総務省が発表した「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」の紹介、目標達成にむけた取組の紹介等がありました。



続いて、ビデオ講演が行われ、「アジアにおける商用化の最新動向」をテーマに、モバイルマーケットの成長が著しい中国、韓国、タイの各国における商用化への取組の紹介がありました。



Mr. Deng Wei（中国）

Dr. HyeonWoo LEE（韓国）

Mr. Saneh Saiwong（タイ）

## ② パネル討論

講演のあと、モデレータに株式会社 MM 総研 代表取締役所長 関口和一 氏、コメンテータに東京大学教授 中尾彰宏 氏、パネリストに株式会社インフォシティ 代表取締役 岩浪剛太 氏、株式会社 NTT ドコモ 常務執行役員 R&D イノベーション本部長 谷直樹 氏、日本電気株式会社 執行役員常務 河村厚男 氏、エ



リクソン・ジャパン株式会社 CTO 藤岡雅宣 氏を迎え、「5G の利活用に向けた日本のデジタル戦略」をテーマとして、今後 5G が促すデジタル変革とグリーンイノベーションをつうじて日本の経済成長にどう貢献するかを大胆に展望するパネル討論が行われました。4G ではスマートフォンが起爆剤となったが、5G では模索段階であり、インフラとアプリをセットで考えることが重要であることや、ミリ波のもつ可能性の大きさ、持続可能性に向けた方向性について、多様な熱い議論が行われました。



パネル討論会の様子

左から関口和一 氏、中尾彰宏 氏、岩浪剛太 氏、谷直樹 氏、河村厚男 氏、藤岡雅宣 氏



最後に 5GMF 事務局長 大村好則 氏より、視聴者、総務省をはじめ全ての関係者への謝辞とともに、5G を使いこなす日が 1 日でも早く到来し、豊かな社会が実現することを期待するメッセージをもって、5G スペシャルデー IV の幕を閉じました。



## 第 191 回 ARIB 電波利用セミナーを開催 「無線 LAN に関する制度化の状況について」

10 月 27 日（木）に第 191 回 ARIB 電波利用セミナーをオンラインで開催しました。今回は、総務省 総合通信基盤局 電波部 基幹・衛星移動通信課 基幹通信室 主査 横出智貴 氏を講師にお招きし、「無線 LAN に関する制度化の状況について」と題して、ご講演をいただきました。

ご講演では、コロナ禍における無線 LAN の役割、無線 LAN を巡る国際動向及び無線 LAN の利用環境整備に向けた我が国における取組をご説明いただきました。当日は、およそ 65 名が参加され、ご聴講いただくとともに、質疑応答が行われました。



横出智貴 主査

なお、講演のプレゼンテーション資料は、当会ホームページ内「ARIB 会員のページ」の <https://www2.arib.or.jp/aribmem/seminar/konwakai/index.html> において公開予定です。

## 第 312 回 技術委員会（放送分野）を開催

第 312 回技術委員会（放送分野）を開催しました。

1. 日 時 : 2022 年 10 月 26 日（水）15 時 30 分～16 時 30 分
2. 場所・形態 : 当会第 3 会議室（Web 会議併用）
3. 議 題 :
  - (1) 放送国際標準化ワーキンググループ活動報告について
  - (2) SET EXPO2022 について
  - (3) FoBTV Technical Comittee 会合について
  - (4) IBC2022 の概要について
  - (5) ARIB-DVB 会合報告について
  - (6) 第 9 回グローバル 5G イベントの概要について
  - (7) 第 119 回規格会議の結果について
  - (8) その他

## 今週の ARIB 内会合（10 月 31 日～11 月 4 日）

10 月 31 日（月）：スタジオ設備開発部会 次世代音響スタジオ規格 TG NHK 技研  
11 月 2 日（水）：スタジオ設備開発部会 音声品質評価法作業班 NHK 技研

## 今週の国際会合（10 月 31 日～11 月 4 日）

参加を予定している会合はありません。

### 総務省などからのお知らせ

## Beyond 5G 時代に向けた新ビジネス戦略セミナー（特別回）

－ 特別講演開催の御案内 －

【令和 4 年 10 月 26 日発表】

総務省では、「Beyond 5G 新経営戦略センター」（共同センター長：森川博之 東京大学大学院工学系研究科教授、柳川範之 東京大学大学院経済学研究科教授）の取組の一環として、「Beyond 5G 時代に向けた新ビジネス戦略セミナー（特別回）」を令和 4 年 11 月 14 日（月）12：30～14：30 にオンラインで開催します。

### 【概要】

Beyond 5G 新経営戦略センターの取組である、Beyond 5G に向けた新ビジネス戦略セミナー（特別回）として、9 月 30 日に国際電気通信連合（ITU）次期電気通信標準化局長に選出され、「LTE の父」とも呼ばれる、NTT CSSO(Chief Standardization Strategy Officer) の尾上誠蔵氏をお招きした、特別講演を開催いたします。

詳細については [【令和 4 年 10 月 26 日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。

**ARIB**

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS  
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階  
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103  
<https://www.arib.or.jp> E-mail [arib\\_news@arib.or.jp](mailto:arib_news@arib.or.jp)